

報告事項ア

平成28年度第2回いじめ問題対策連絡協議会の概要について

平成28年度第2回いじめ問題対策連絡協議会の概要について別紙のとおり報告します。

平成28年11月21日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

平成28年度第2回いじめ問題対策連絡協議会の概要について

平成28年11月21日

いじめ・不登校総合対策センター

「いじめ防止対策推進法」の趣旨にかんがみ、平成26年度に、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処に係る機関及び団体の連携を図るため「鳥取県いじめ問題対策連絡協議会」を設置し、今年度第2回協議会を下記のとおり開催した。

- 1 日時 平成28年11月7日（月）午前10時から正午まで
- 2 場所 鳥取県教育センター
- 3 出席 教育長、教育次長他関係職員及び構成機関の代表者

機関・団体名		担当部署等
県の機関（学校以外）	総務部人権局	人権・同和対策課
	地域振興部	教育・学術振興課
	福祉保健部	福祉相談センター（児童相談所）
	教育委員会事務局	いじめ・不登校総合対策センター
	警察本部	少年課
市町村（学校以外）	教育委員会	都市教育長会 町村教育長会
学校	県立学校	高等学校長協会 特別支援学校長会
	市町村立学校	小学校長会 中学校長会
	国立学校	
	私立学校	私立中学高等学校長会
鳥取地方法務局		人権擁護課
団体	鳥取県弁護士会	
	鳥取県医師会	
	鳥取県臨床心理士会	
	P T A	P T A協議会 高等学校P T A連合会 特別支援学校P T A連合会

4 主な内容

（1）鳥取県のいじめの現状と課題

◇平成27年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より

- ・平成26年度の再調査で、いじめの認知件数が大きく増加した。平成27年度も引き続き、積極的にいじめを認知するために、教職員がアンテナの感度を高くして子どもの思いを積極的にキャッチし、「初期段階やごく短期間に解決した事案についてもいじめとして認知し、早期に対応し、組織的に対応する」という姿勢が伺える。
- ・今後も初期段階のものや短期間に解決したものもいじめの認知件数に計上することを徹底することも求めている。
- ・いじめの認知に学校差がある。いじめは起こりうるという認識を持ち、複数の目で組織的に対応していくよう求めている。

(2) テーマ別協議

【第1部会】ネットいじめに関する問題について

- ◇学級経営と人間関係づくりがベースである。
- ◇保護者が子どもの問題にどう気付くかが大切である。保護者が情報に追いついていない実態がある。保護者研修も行っているが、より多くの方に参加していただく工夫、研修に参加されない方にどのように伝えていくかが課題になる。子どもと保護者が一緒に研修を受けるやり方もある。
- ◇顔が見えないところの書き込みによる攻撃性、削除できない危険性、拡散性、情報が広がるスピード、事実確認が難しい点などをよく理解しておく必要がある。
- ◇小学生からの指導が必要である。「これくらいのこと」という考えが問題であることを指導していく必要がある。

【第2部会】いじめの認知に関する問題について

- ◇いじめの可能性のあるものを拾っていくことが学校の信頼をあげていくことになる。「いじめが無い」と報告する学校は信用されないリスクを伴うことを認識する必要がある。
- ◇いじめ認知が不名誉だという教職員の認識を変えていく必要がある。
- ◇教職員のいじめの認知基準の共有化を図り、「学校いじめ防止基本方針」や「いじめ対策委員会」等の形骸化を防ぐことが求められている。
- ◇国が「いじめの定義」を変えたにもかかわらず、学校現場に徹底しないのはなぜかということを検証する必要がある。

【第3部会】具体的ないじめの解決方法について

- ◇子どもの背景(環境、家族関係、地域等)の把握やいじめの事実確認をしっかりする必要がある。
- ◇教育相談体制の充実が大切である。子どもたちに何かあった時、相談する人がいるかどうか重要である。
- ◇一人ひとりの子どもに愛着形成をすることで自尊心が高まっていく。そして、人への共感へとつながっていく。その取組がいじめの予防につながっていくと思う。それぞれの団体、関係機関で出来ることをしていく必要がある。
- ◇子ども同士で折り合いをつける力を身につけることが大切である。
- ◇子どもたちを取り巻く地域の力を借りることも必要である。

(3) 総括

- ◇本日の各部会では、多くの貴重な意見が出された。子どもたち、PTA、教師それぞれの立場で取り組むこと、身につけてほしい力等が具体的に提案された。今後は実行可能な提案についてさらに検討し、発信していきたい。
- ◇今回のまとめについては、後日各委員、関係課に送付し、第3回目の連絡協議会に生かしていきたい。